



# 地域交流活動かわら版

杏林大学 地域交流課 2017/8/31 vol.30

## 平成 29 年度『青梅・羽村ピースメッセンジャー』に参加

8月4日(金)~6日(日)総合政策学部と外国語学部の学生2名が、青梅市・羽村市の中学生のリーダーとして活動してきました。

参加の動機は「戦争を過去の歴史として捉えるだけでなく、広島を自分の中に留めておきたかった。」また「中学生を支援しながら、大学生として今しかできない事に挑戦したかった。」など、未来へ向け記憶の継承に繋げる意欲的な思いを語ってくれました。事前活動として作文の提出、事前研修を数回受けての出発となりました。現地では広島平和資料館の見学や平和祈念式典に参加、被爆者から体験談を聞くなど、平和の大切さを心で感じ取る活動ができました。帰京後の8月11日(金)と15日(火)に事後研修、8月20日(日)には平和をテーマにしたワークショップと報告会が行われました。 ※右の写真は全て、田嶋くんが撮影してくれた物です。



### 総合政策学部の田嶋克侑くんの活動報告

この事業を通して、中学生と共に平和学習を体験し改めて戦争の悲惨さを学びました。

教科書で学ぶ内容を基礎に実際に目で見て肌で感じた事がとても良かったと思います。こうした活動を自分達の世代が多く経験できると、更に一人一人が平和への思いに近づけると思いました。

と思いました。

また大学生という立場から、中学生をリードしながら自分の勉強にもなる今回の活動は、非常に良い事業であると思います。平和というものについて普段目を背けがちであり、日常生活においてあまり考えないことかもしれません。しかし、私達若い世代がこうした活動を通して感じたことを次世代へ伝えていくことが大切であると思います。百聞は一見にしかずという言葉がありますが、その通り目で見ると大切さを中学生と一緒に学べる良い機会となりました。自分の将来へ向けて、大きく飛躍できる有意義な支援活動となりました。



### 外国語学部の佐藤智子さんの活動報告

今回のピースメッセンジャーでは、多くの貴重な体験をすることができました。平和祈念式典の参列や、来年以降は耐久性の問題で立ち入りが難しくなる被爆建物の見学など、生涯心に残るような体験をさせて頂きました。現地での活動目標の一つとして、私も中学生と共に一人の学び手として研修に臨むことを掲げておりました。実際に様々な展示物やイベントに参加し多くの刺激を受けながら、平和学習に限らず実りのある学びを得ることができました。

最初は「リーダー」という言葉に不安もありましたが、同じ立場の大学生、市の職員の方々や指導員の先生方の温かな支援に支えられながら、楽しく無事に研修を終えることができました。エントリーを迷った時もありましたが、進んで参加して本当に良かったと思えました。またこのような機会があったら後輩などに勧めたいと思います。



## 生きがいづくりコーディネーターとBP受講生の「意見交換会」を開催

7月26日(水)生きがいづくりコーディネーター養成講座と地域活性化コーディネーター養成講座(BP)の「意見交換会」を、履修生17名が参加して実施しました。今年度からの履修生は「学ぶ事によって自身の気持ちの整理がつけられた」といった学ぶ事の喜びや、自分達よりも若い学生や違う社会経験を積んできた受講生との出会いに刺激を感じたと語る姿が印象的でした。また、継続履修の方は学外での更なる活動とその後の展望を語り合い、「挑戦」や「夢」といった気持ちを強く表現する有意義なひと時となりました。



## 災害復興期における地域再建支援活動を実施



8月8日(火)~11日(金)に保健学部の大木幸子教授と、保健学部学生5名(上村なつみ、下田佳代、垂見ゆり、吉井菜摘、吉田華乃子)が宮城県気仙沼市で活動を行いました。

現地では住民のサークル活動への参加、交流会、訪問活動などのフィールドワークを実施して、地域貢献と災害復興期における地域再建支援活動を展開しました。また気仙沼市内の視察や資料展示の見学、住民との交流、産業の再建に向けた取り組みの聞き取りなどから、被災の甚大さとその後の復興過程を学習しました。さらに移転地域でのワークショップでは、健康教育(健康体操、熱中症予防の講話)を実施し、その後新たな地域づくりをテーマにしたテーブルトークに参加し、各グループの話し合い内容の発表を行いました。学生は報道されている被災地の状況と異なる復興の厳しさを実感するとともに、復興住宅や再建住宅への移転が進む中での、新たな地域づくりにむけた課題を被災者の言葉を通して理解を深めることができました。

## 『みたから4号』に向けて学生が始動!

### ●アトレヴィ三鷹の商品撮影で写真部が健闘!

次号に掲載される商品撮影を写真部が担当しました。アトレヴィ三鷹と打合せを重ねアングルや構図を検討し、8月24日(木)「秋冬のおすすめ商品」の撮影を実施しました。初めて臨んだ商品撮影会では、緊張と責任感のある動きで無事撮影が終了しました。



### ●三鷹市内の社会福祉施設を総合政策学部の学生が取材!



総合政策学部の進邦ゼミの学生が社会福祉法人 朝陽学園と社会福祉法人 むうぶ舎を訪問し、社会貢献活動の様子を取材しました。現在、原稿作成中。『みたから4号』は10月上旬発行を予定です。



【むうぶ舎取材】蜂須啓矢・篠澤裕稀

【朝陽学園取材】柴崎悠吏・山崎雄矢・愛甲量士